

松江市持田公民館

1 持田地区の概要

[平成 27 年 3 月末現在]

人 口	3,960 人	世帯数	1,671 世帯	高齢化率	25.1%
学 校	小学校 1	幼稚園 1	保育所 1		
自治会加入率	68.8% ※学生マンションを除くと 90%以上				

持田地区は松江市中心市街地の北東部に位置し、標高 507m の澄水山（しんじさん）を最高峰とする北山山系とこれに対峙する嵩山（だけさん）に囲まれ、古くから農業が営まれた地域であり、今でも田園風景が広がっている。中央部の平坦地には国道 431 号が東西に貫き、主要地方道松江島根線、市道北山線などと合わせ道路整備は進んでいる。

かつて純農村地帯であった当地域は、中心市街地に近いこと、平坦な土地が広がっていることなどから宅地化が進み、新興住宅と農家住宅が混在する地域へと変貌した。近隣には島根大学やソフトビジネスパークがある。

また、出雲国風土記に登場する神社が 5 社あること、民族芸能である亀尾神能が継承され毎年各所で奉納されているなど、古くからの文化が今に伝わっている。

2 特色ある取組

映画「勘助物語」「続勘助物語」の制作

(1) 事業のねらい

持田地区には、「自由恋愛の始祖」と刻まれた石碑がある。この石碑には、松江藩足軽「勘助」と家老の娘「菊姫」が身分の違いを乗り越えて愛を貫いたという言い伝えが残されている。地域住民の一人からこの物語の映画化について提案があり、公民館として以下のねらいをもちながら制作に協力することとなった。

- 「映画制作」という新たな切り口で地域を活性化する。
- 地域内の伝説や文化を掘り起こし、住民の地域への関心を高める。



(2) 具体的な取組

H26	5 月	地域住民 A さんから「勘助物語」映画化の提案
	6 月	地域住民 B さんの協力で絵コンテ完成 絵コンテを見た多くの方が映画化に賛同
	9 月	クランクイン
	10 月末	「持田ふるさとまつり」(公民館事業) で地域住民 100 名を観客に 上映会を実施
	11 月～	【上映会】町内集会所 (8 箇所) / 米子市 マーブルテレビ (20 回放映)
H27	しまね文化ファンドの支援を受け、2 作目「続勘助物語」の制作が決定 ○市内 5 小学校 12 名の児童が出演 (公募) ○出演児童の保護者が制作スタッフで参加 ○島根大学演劇部の参加	

9・10月	持田神社・比加夜神社・澄水寺観音堂等で収録  
10月末	「持田ふるさとまつり」で上映会を開催（120名）
11月～	【上映会】 スサノオカフェ（120名） 松江市市民活動センター（150名）

（3）事業の成果

- 制作スタッフ・出演者は70名を超え、鑑賞会での観客数も約1,000名になり、地域が活気づいた。
- テレビ放映や新聞報道（2社）もあり、持田地区内外の多くの方にこの物語が知れわたった。
- 映画をきっかけに、石碑に通じる登山道が整備され、「勘助の道」と命名された。

（4）今後の取組

映画の舞台になった「勘助庵跡の石碑」のある松江北山山系は、林道北山線が開通（平成28年度予定）すると、車で周回が可能になる。「勘助庵跡の石碑」「勘助の道」などを素材に、多くの方が松江北山を訪れる「仕かけ」を作っていきたい。具体的には「登山道の整備」「地域で作成した北山縦走マップの配布」「ハイキングの開催」を計画している。

今後も引き続き映画の上映会や映画制作のエピソード等の紹介を行うほか、今回の制作に中心的に関わった人たちによる映画制作グループが、松江に拠点を置くことを期待して、3作目「続勘助物語」の制作を支援したい。

3 その他

映画制作への協力は「映画を作るので協力して欲しい。」という一人の住民の提案から始まった。次第に映画制作の輪が広がり、テレビドラマへの出演経験がある方から演技指導を受けたり、撮影技術に詳しい方の協力を得たりしながら、当初は予想もしていなかった本格的な作品が完成した。

この事業を通して、公民館を拠点に行う地域づくりには、
○がんばっている人を『地域』が応援する。

○自分たちだけでやり遂げようとするのではなく、外部の力を借りる。

という視点も大切だということを学んだ。

